



## ハエは何かの役に立っているの

### ハエはきらわれもの

ハエは、日本にいるものだけでも、数千種類にもなります。そして、その大部分が、くさりかけた果物や植物に集まったり、いろいろな動物のふんに集まったりします。そのため、不潔で、病気の原因になるウイルスやばい菌などを、足や体につけて運ぶということで、きらわれています。鳥やウシ、ウマなどの血を吸うハエもいます。人間におそろしい病気をうつす、アフリカにいるツェツェバエも、有名です。

### 役に立つハエもいる

でも、探してみると、ハエも役に立っていることが、いろいろあるのです。

くさりかけた果物や、つけ物などがあると集まってくる、小さい赤い目をしたショウジョウバエは、遺伝の研究に使われ、役に立っていることで有名です。このハエは、飼うのが簡単で、25日で10日もあれば親になるという特長をもっています。そのため、親のいろいろな性質が、どんな割合で、子や孫、もっと下の子孫まで伝わるかを研究するのに便利なのです。

花によく集まるハナアブとよばれる仲間、ヒラタアブがいます。花のみつをなめにきてアブに似ているためハナアブとよばれますが、ハエの仲間です。この幼虫は、新芽をあらすアブラムシを食べてくれるので、園芸家には、とてもありがたいハエです。

ほかの虫の体に親が卵を産みつける、寄生バエも、虫を退治するのに役に立っています。たとえば、メバエの仲間は、人間もさされて死ぬことがある、スズメバチの体に産卵し、幼虫はハチの体液を吸い、さなぎになります。また、庭木をいためるカイガラムシに幼虫が寄生する、カイガラヤドリバエなどもいます。(監修・中山 周平)

